

子どもたちの「学びの保障」のために



横浜市教育委員会
教育長 鯉淵 信也

令和3年度は、ウィズコロナ下の学習支援と「安全・安心」環境の実現に向けて、各学校において感染症リスクを最小限に抑えつつ教育活動に取り組むことが、令和2年度に引き続き求められた年となりました。このような中でも、横浜市小学校教育研究会が中心となり、創意工夫をしながら感染症対策と教育研究を見事に両立させ、「コロナ禍でも学びを止めない」というコンセプトの基、今までにない新しい研究会を創り出してくださったことに改めて感謝申し上げます。

ご存じのとおり、横浜市教育委員会では、感染リスクを最小限に抑えつつ、子どもたちの「学びの保障」のためにガイドラインを作成して、状況の変化に応じて随時更新を行ってきました。加えて「GIGAスクールにおける学びの充実」を図り、1人1台端末の環境におけるICTの効果的な活用を促進してまいりました。これからもウィズコロナだけでなく、アフターコロナも想定したICTの活用を目指して参ります。

横浜市小学校教育研究会におかれましては、研究主題を「社会に開かれた教育課程の創造・実践 ～主体的・対話的で深い学びを実現する授業力の向上と研究交流の広がりをめざして～」として、研究を進められてきました。その中で、「社会に開かれた教育課程」を軸にしたカリキュラム・マネジメントの実現や、「資質・能力」育成とそのために必要な「主体的・対話的で深い学び」等を視点とされました。授業研究会では、参加する人数を制限して密を避ける、授業を事前に録画する、オンラインで授業を参観する、協議会をハイブリッド型で行う等、様々な工夫を行い、ICTを効果的に活用して大きな成果を挙げたと聞いております。今後も横浜の教育が目指す人づくり、「自ら学び 社会とつながりともに未来を創る人」に向かって研究を推進されることを期待しております。

末筆ではありますが、貴研究会のますますのご発展と皆様のご健勝を祈念して、ご挨拶とさせていただきます。